

令和8年 10月 16日

都市局公園緑地・景観課

令和7年に国立競技場3個分の「屋上緑化」が創出

～全国屋上・壁面緑化施工実績調査の結果～

令和7年には、約21.9haの「屋上緑化」及び約4.8haの「壁面緑化」が新たに創出されました。

1. 調査結果（施工面積）

(1) 単年施工面積

令和7年に、屋上緑化は国立競技場^{※1} 約3個分に当たる約21.9ha、壁面緑化は約4.8haが施工されました。

※1 国立競技場：約6.96ha。

（参考）調査の概要

- ①調査方法： 郵送によるアンケート調査
- ②調査対象企業： 全国の造園建設会社など 計573社
- ③回答回収状況： 回収280社（回収率48.9%）
- ④調査対象期間： 令和7年1月1日～令和7年12月31日

(2) 累計施工面積

調査を開始した平成12年から令和7年までの26年間で、屋上緑化は約656ha、壁面緑化は約137haが施工されました^{※2}。

※2 本調査は最大3年間遡った回答を依頼しているため、令和6年、令和7年データは暫定値であり、来年度以降の調査の結果、数値が変わる可能性があります。

2. 近年の特徴的な傾向

広大な緑地を活かし、高度な緑化技術などにより、雨水の貯留・浸透による流出抑制や生物多様性確保等を図るグリーンインフラの事例が見られます。

次ページ「事例」もご参照ください。



涵養機能を持たせた大規模屋上緑化の例
（東海国立大学機構 Common Nexus（大学施設））



複雑曲面を有する大規模屋上緑化の例
（麻布台ヒルズ（大型商業施設））

<問合せ先>

都市局 公園緑地・景観課 緑地環境室 三井、森山

TEL：03-5253-8111（内線32912、32945）、03-5253-8420（直通）

東海国立大学機構 Common Nexus（愛知県名古屋市）

諸元

敷地面積：243,659 m²

（東山キャンパス西地区）

建築面積：5,469 m²屋上緑化面積：4,160 m²

完成時期：2025 年

かつての既存地形を継承する傾斜屋根を活かしたグリーンインフラ

東海国立大学機構は、名古屋大学東山キャンパス構内に、学生や教職員に加え、企業や地域住民など多様な人々が集い、交流する拠点を整備した。「交わる、つくる、伝える」をコンセプトに、大学と社会をつなぐ新たなコミュニケーションの場を創出するとともに、その象徴的な空間として、かつてこの地に見られた緑豊かな谷戸地形を表現した広大な屋上緑化を整備した。

傾斜屋根を活用した大規模な緑化では、雨水が谷部に集中することによる土壌流出や植栽基盤の不安定化が課題となる。そこで本計画では、雨水の浸透と流出の抑制を図り、屋根面に降った雨水を適切に処理するための、安定した緑化基盤を形成した。

具体的には、土壌下に保水・排水マットと立体的な樹脂材による流水路を設置し、芝生を健全に育成し、降雨を適切に排水する仕組みを構築した。また、屋根上の複数箇所に土留めを設けることで、傾斜による土壌流出を防止している。これらの工夫により、谷戸地形を想起させる景観の創出と、雨水管理に資するグリーンインフラとしての大規模な傾斜屋上緑化の安定的な維持を両立している。

屋上全景

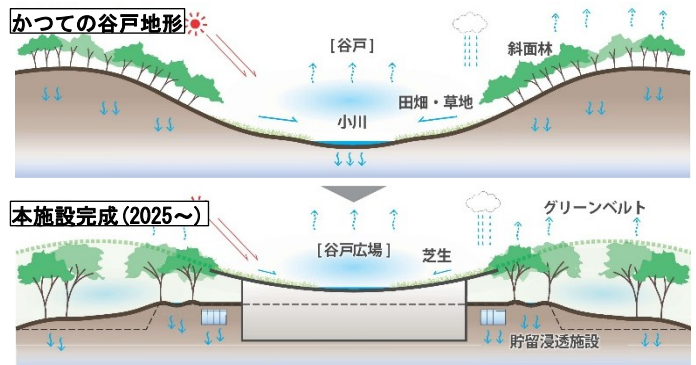
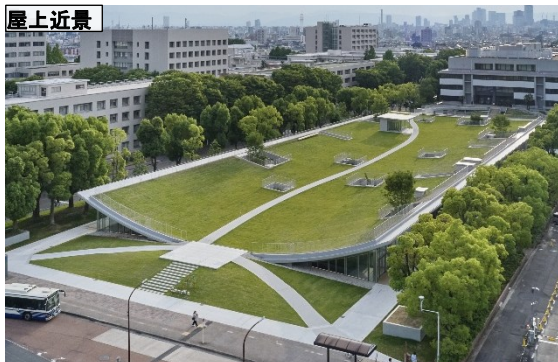


正面



学生や教職員だけでなく、近隣の方、子どもたちなど、すべての人に開放された探究空間として、名古屋大学駅直結の立地に 2025 年 7 月にオープン。湾曲した屋上緑化スペースは「谷戸広場」と呼ばれ、大学関係者のほか、地域住民も利用できる共創の場として機能。

屋上近景



世代や領域を超えた新たな交流が生まれる場として機能。

傾斜屋根を活用した屋上緑化により、かつてこの地に見られた緑豊かな谷戸地形を表現。

麻布台ヒルズ（東京都港区）

諸元

敷地面積：63,900 m²建築面積：37,100 m²屋上緑化面積：8,864 m²

完成時期：2023 年

精緻な技術が生み出す生物多様性向上に寄与するアーバンオアシス

麻布台ヒルズは、「緑に包まれ、人と人をつなぐ『広場』のような街」を目指す「Modern Urban Village」を開発コンセプトとしている。約2.4ヘクタールの緑地は、水辺や草地、樹林地と異なるタイプの生息地が配置され生き物に配慮している。また、植栽面積の大半を在来種が占めている。

本施設は、起伏に富んだ屋根形状を特徴としている。屋上緑化の整備にあたっては、土壌の流出防止や雨水等の適切な水管理が課題となる。

そこで、蜂の巣状の仕切りで土壌を固定するジオセル工法を用いることで、斜面上における植栽基盤の安定化を図り、土壌の流出を防止した。また、植栽基盤については、保水性・排水性に優れた土壌を採用するとともに、自動灌水装置を導入することで、植栽に適した水環境を確保した。

これらの取組により、本施設の屋上緑化では、起伏に富んだ屋根形状でありながら、草本類や低木のみならず、中高木も積極的に活用した階層的な緑化を実現し、生物多様性の向上に寄与している。



「生物多様性の確保」「Well-beingの向上」「気候変動対策」等に寄与する緑地として、「優良緑地確保計画認定制度（TSUNAG）」において、最高ランクであるトリプルスターを取得。

ジオセル工法



屋上緑化の施工



蜂の巣状の仕切りで土壌を固定するジオセル工法を採用することで、斜面上における植栽基盤の安定化を図り、起伏に富んだ屋根形状においても屋上緑化を実現。